

ライツ・イシューについて

平成23年11月

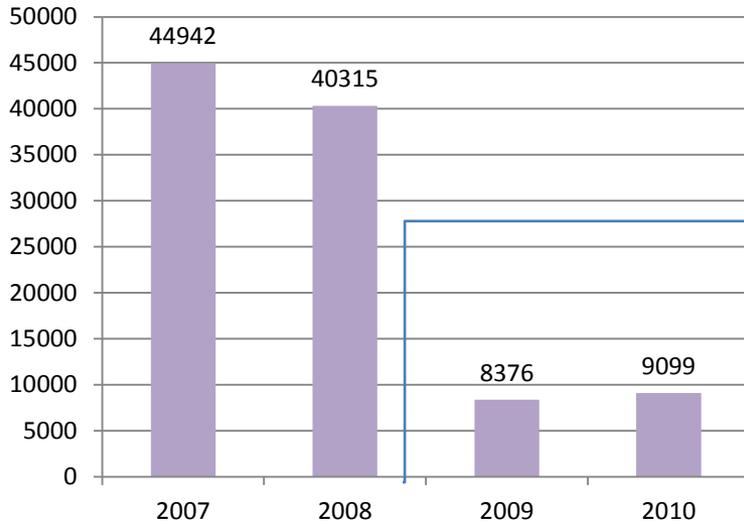


株式会社資本市場研究所きずな

資本市場の現状

市場の出：自社株取得状況

億円 上場会社の自社株取得金額



金融危機後、自社株取得金額は著しく減少している。

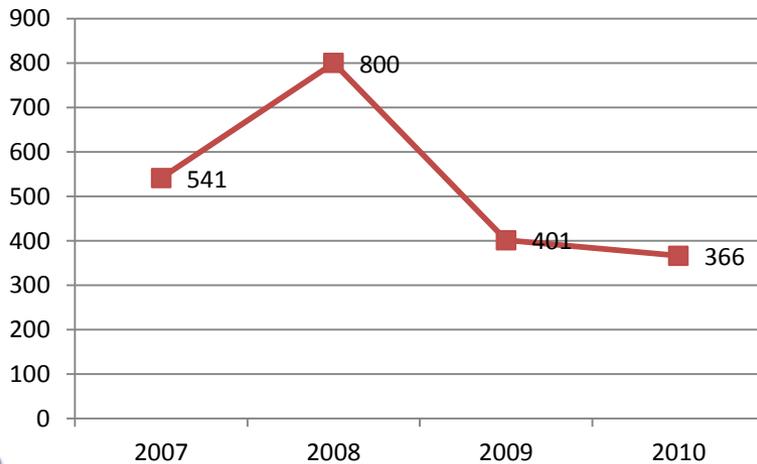
上場企業の
手元資金の増加

自社株取得ルールの緩和
・市場からの買付で、出来高の100%でも良い(通常は25%)

※このルールは金融危機以降導入されて、一応10月末まで(延長の可能性もあり)

自社株取得増加への期待

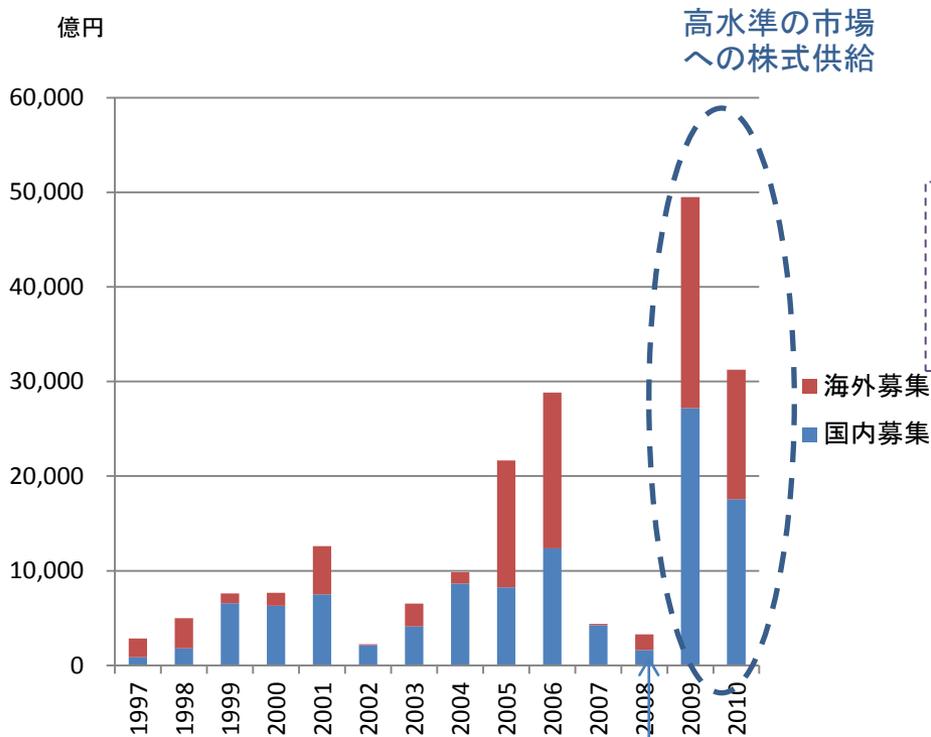
社数 上場会社の自社株取得社数



※東証要覧より当社作成

市場の入り: 公募増資の現状

公募増資の推移



※日本証券業協会資料より当社作成

一件当たりの調達額が大型化

- ・2009年度: 55社 (1社平均: 1041億円)
- ・2010年度: 49社 (1社平均: 566億円)

事業再構築のための
リスクマネーが必要

震災復興への資本増加需要
が高まる可能性も

公募の
代替手段
として

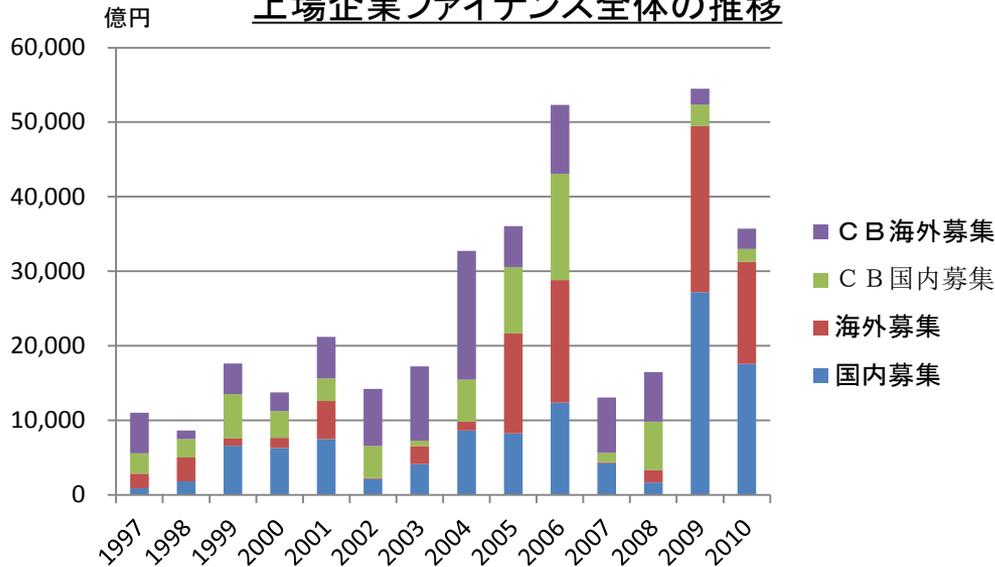
今後も高水準の
大規模な
資本調達等が
見込まれる

ライツイシュー

CB
(新株予約権付社債)

ファイナンスと公募増資の状況

上場企業ファイナンス全体の推移



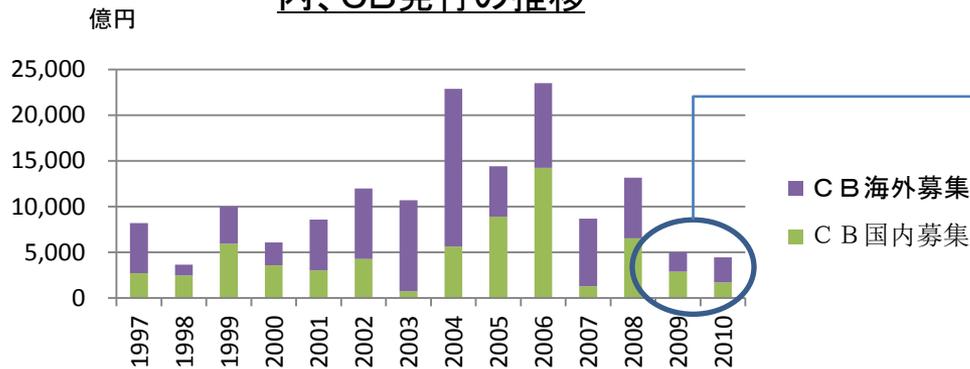
直接市場に株式
が供給されない

転換株価を時価
より高めに設定

CBの利点

上場会社のファイナンスにおいて、CBがもっと活用できないか

内、CB発行の推移



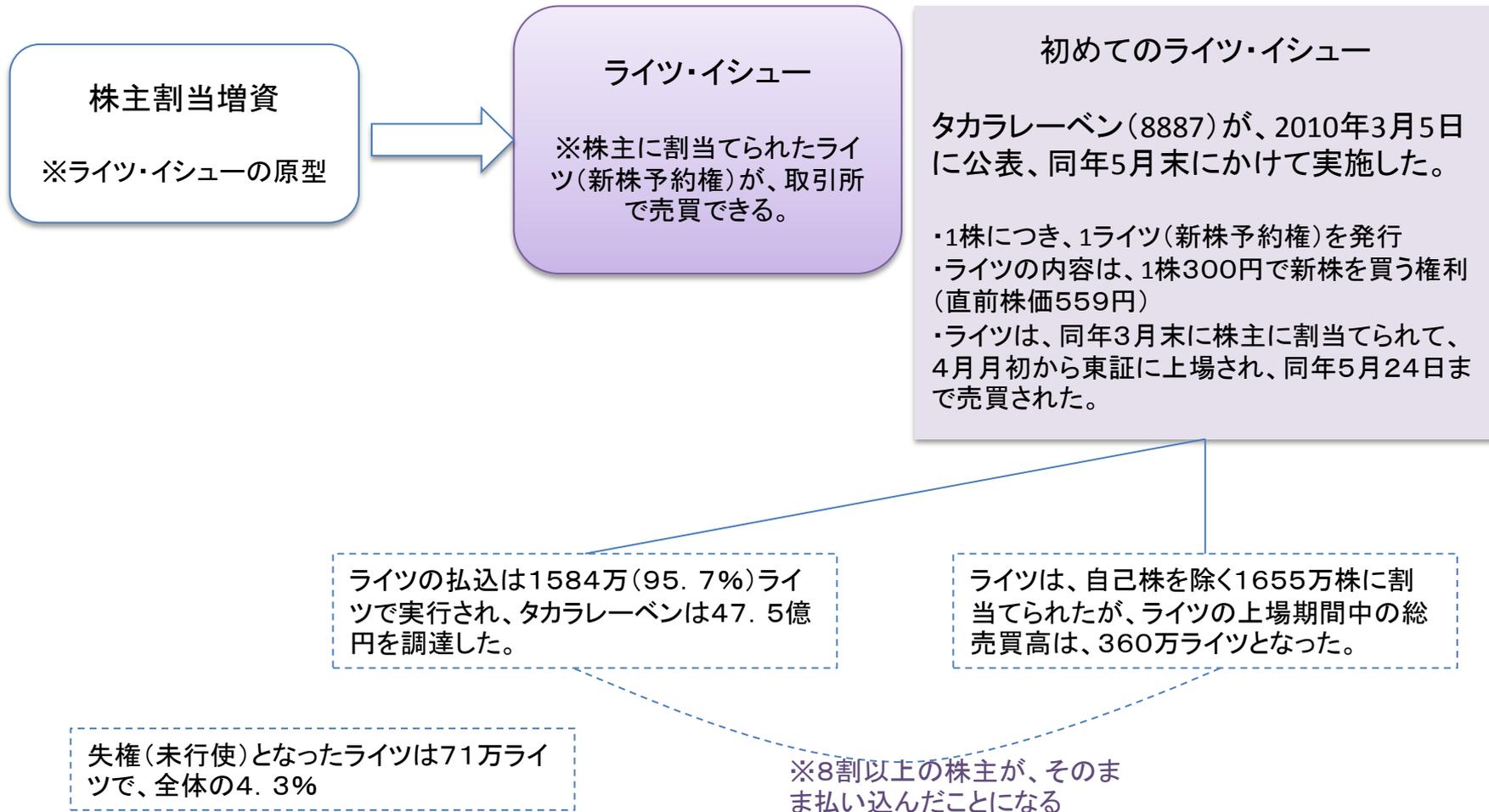
金融危機後、CBの発行は
極端に減少していた

自社株取得と組み合わせた
リキャップCBの活用

※日本証券業協会資料より当社作成

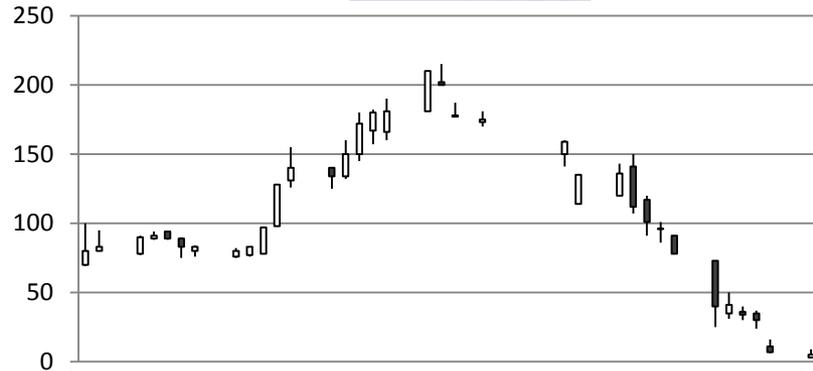
タカラレーベンによるライツ・イシュー

ライツ・イシューの事例



右図は、東証に上場された
ライツの価格推移です

ライツの価格推移



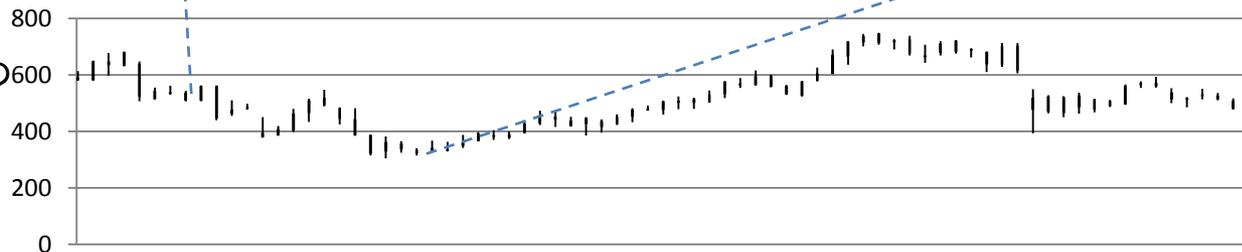
右図は、ライツ・イシュー
実行時のタカラレーベンの
株価推移です

株価推移



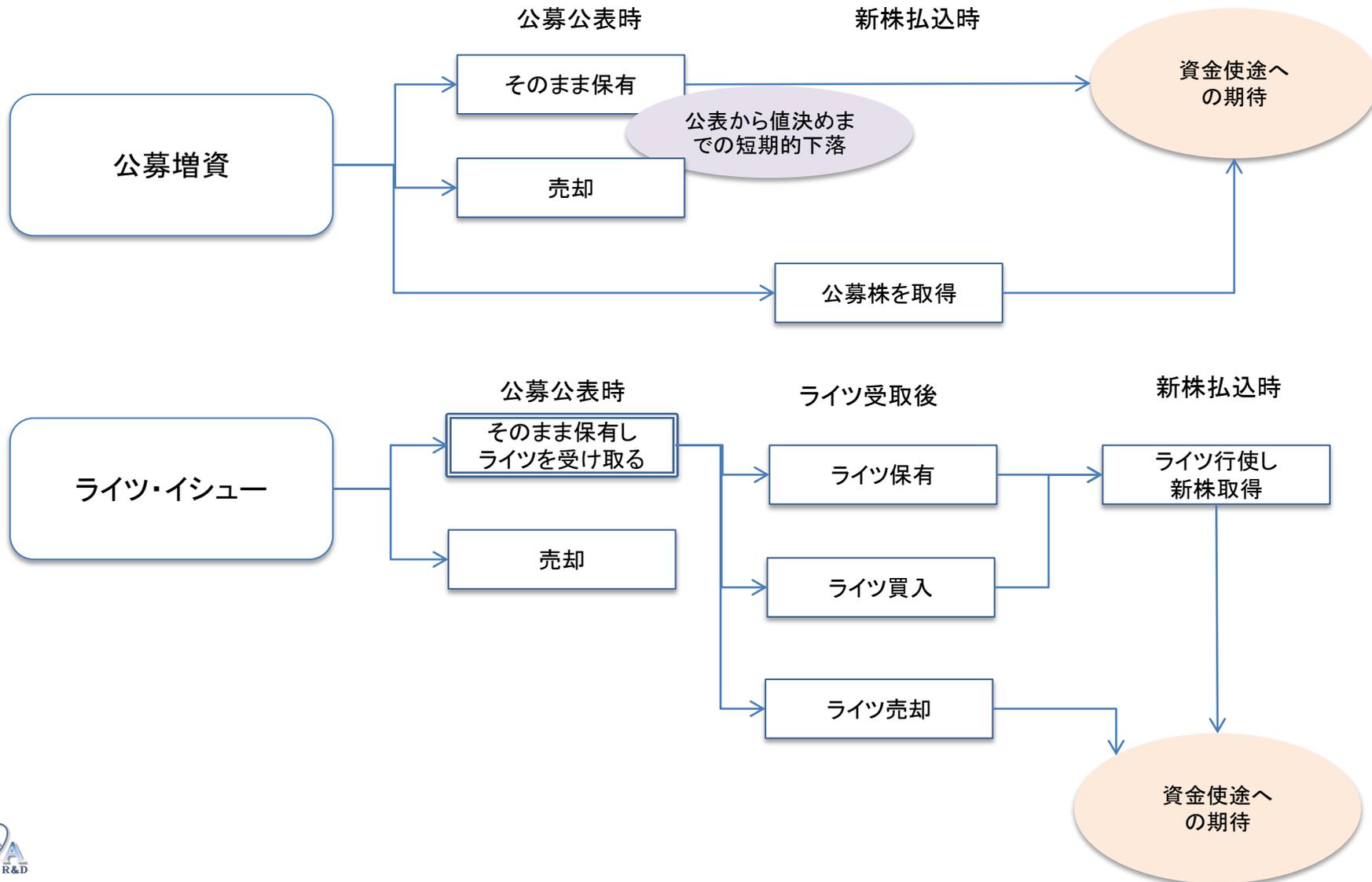
タカラレーベンの株価推移(2010年1月~2011年6月)

右図は、昨年からの
タカラレーベンの
株価推移です



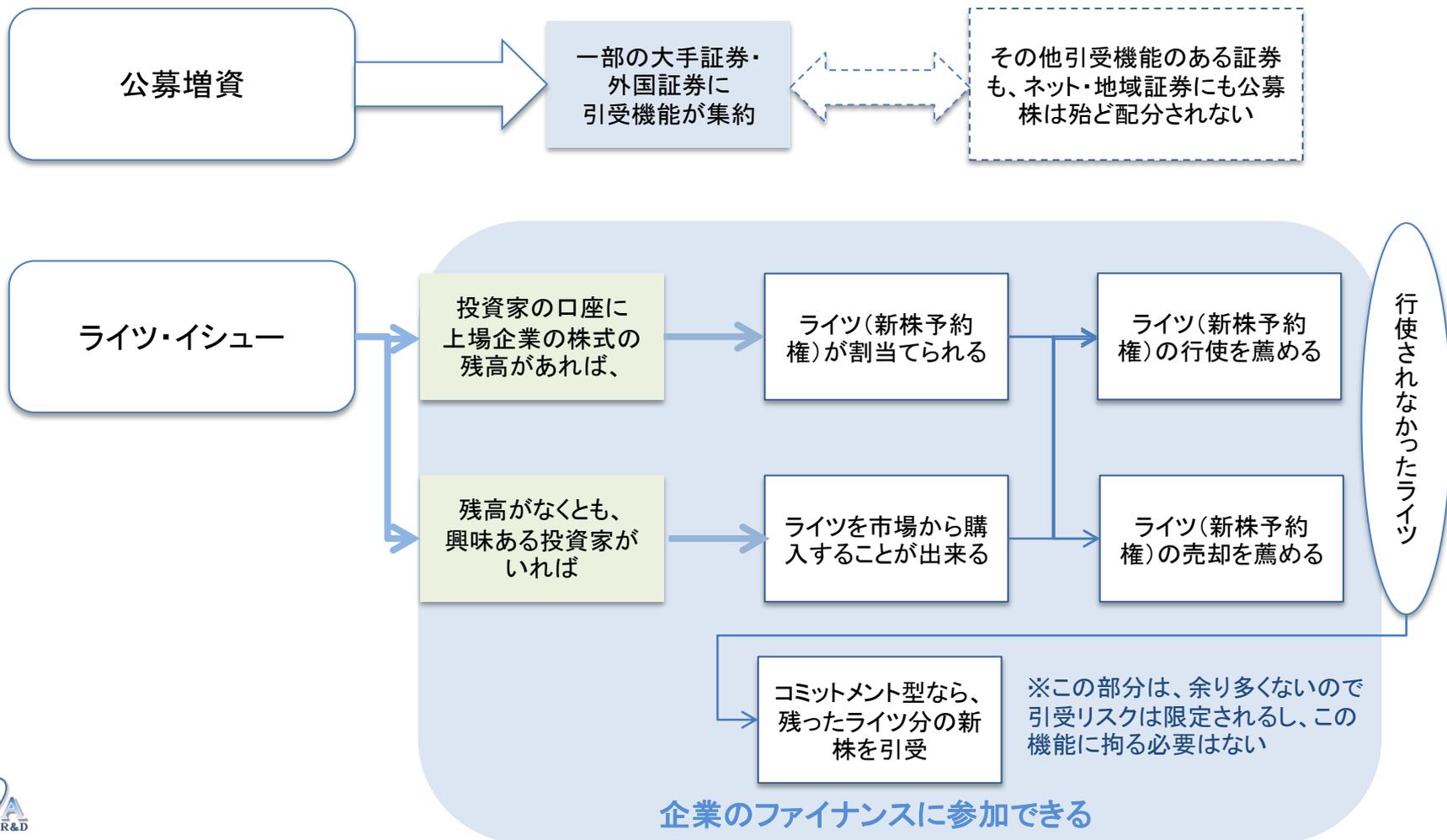
それぞれのメリット

ライツ・イシューは株主の選択肢を増やす



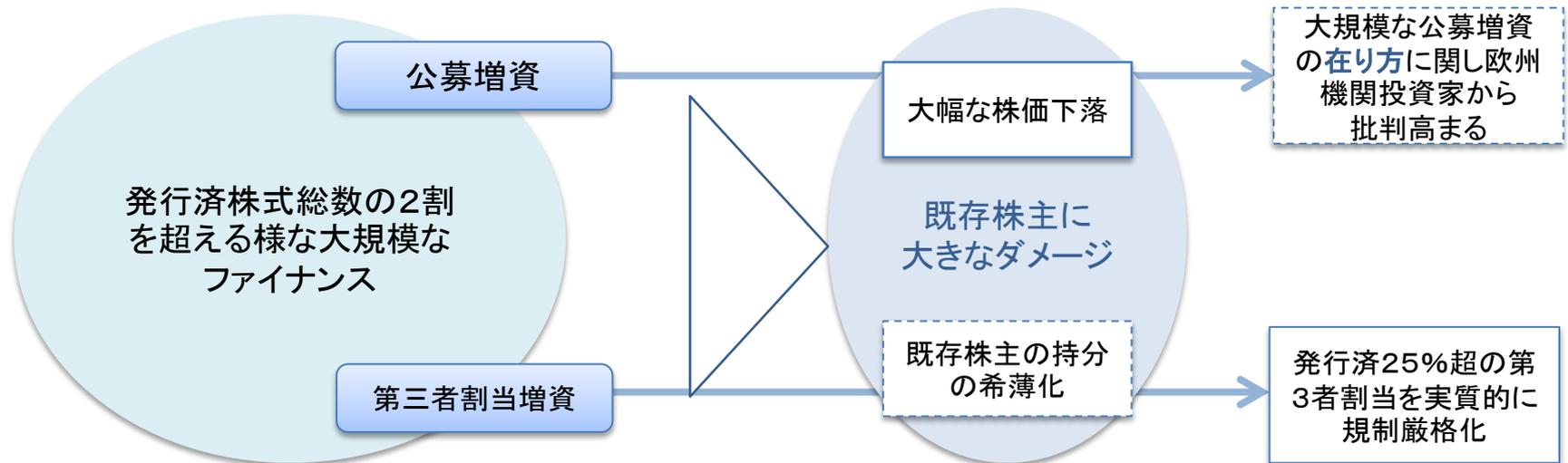
ライツ・イシューは証券会社のビジネスを拡大する

証券会社



ライツ・イシューの現状について

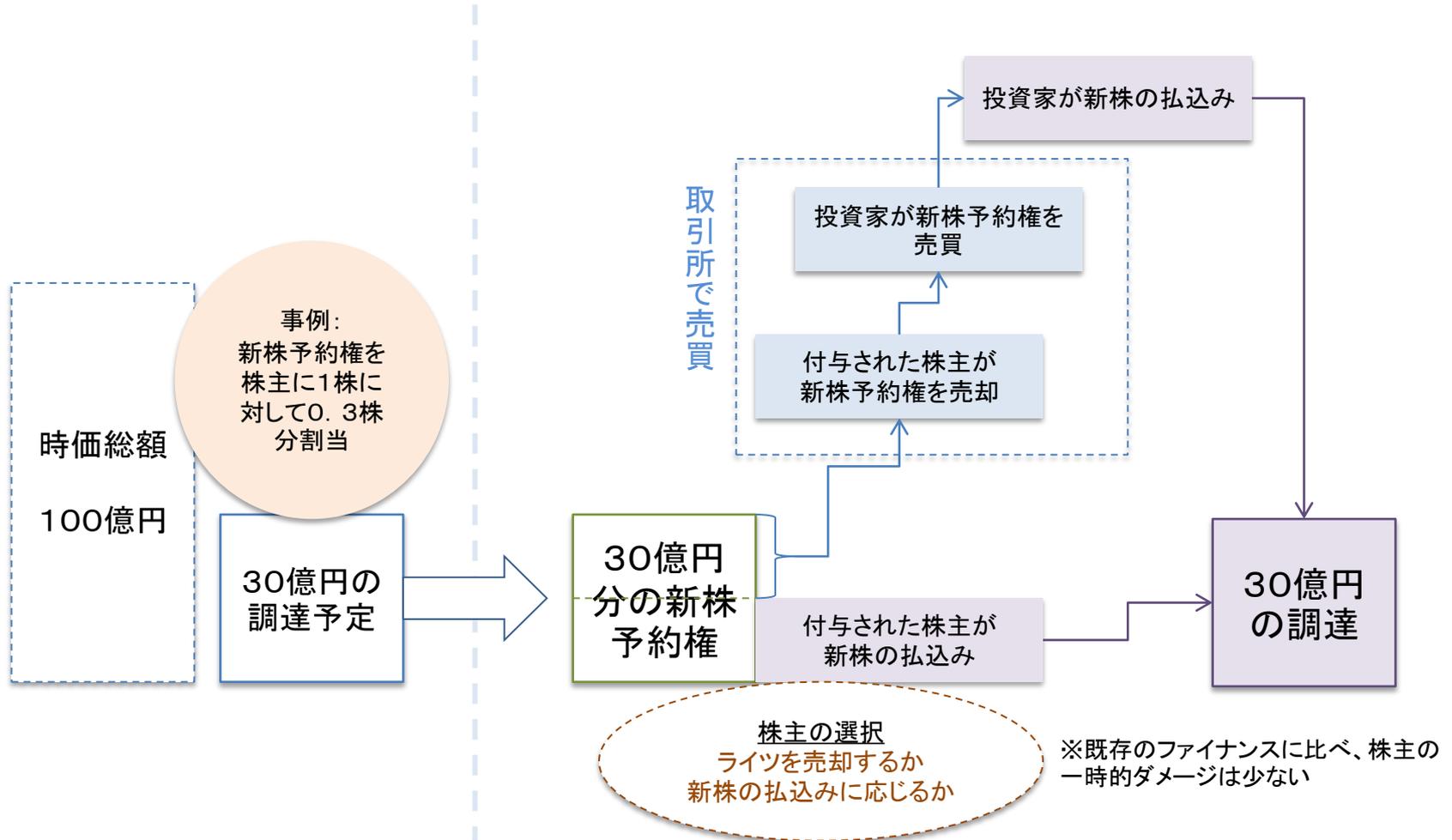
ライツ・イシューが必要とされる背景



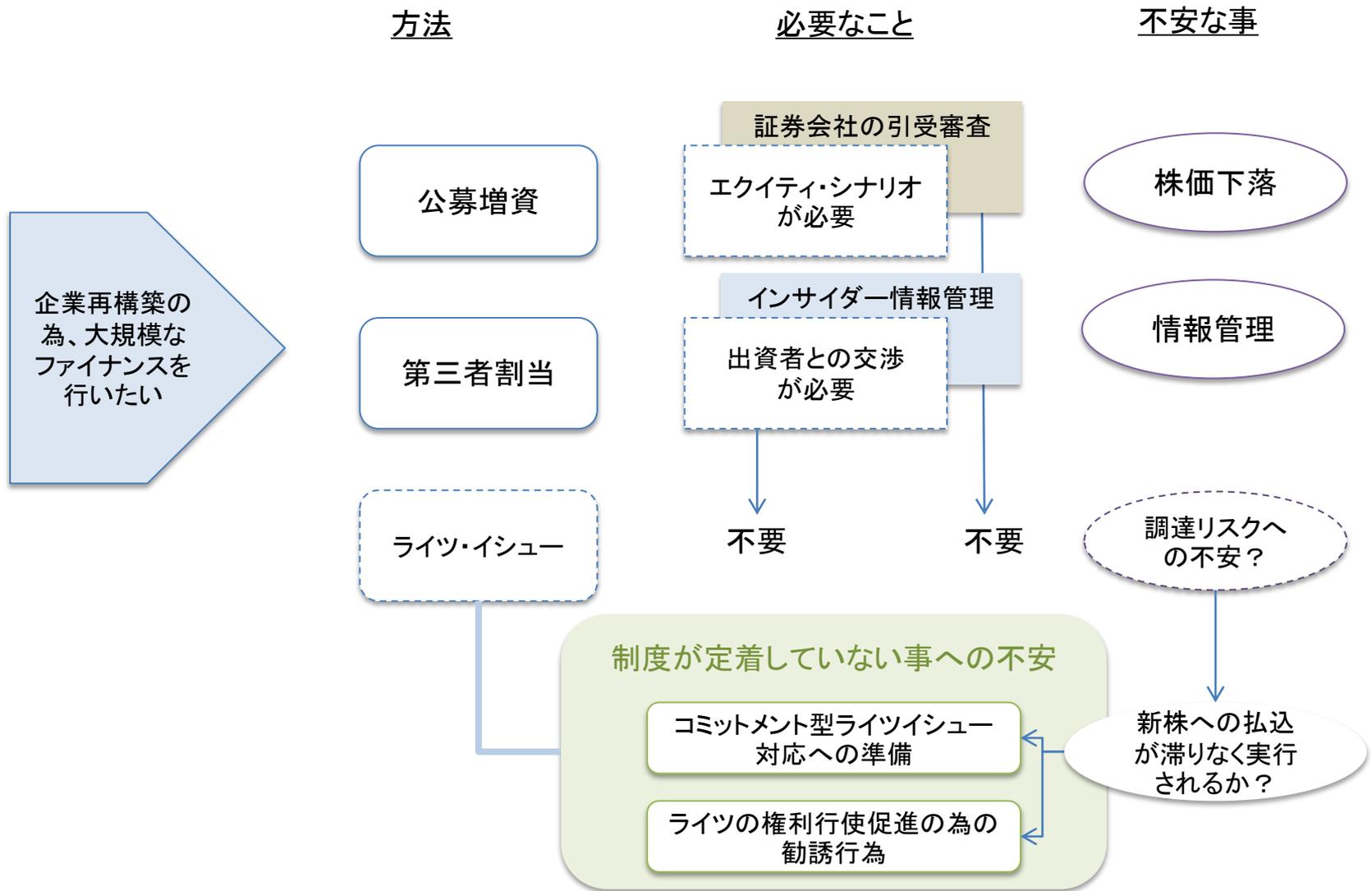
ライツ・イシューの概要

ライツ(新株予約権)割当

ライツ割当後



企業にとってのライツ・イシュー



行政上の推進対応

新株予約権
上場ルール緩和
(東証:2009年12月)

東証に上場可能なライ
ツ(新株予約権)は1ラ
イツに対し1株以上

この基準を
撤廃

企業が必要と思われるラ
イツを付与。例えば1ライ
ツに対して0.3株の新株
を付与したものを上場し
売買することが可能に。

届出書の期間短縮
(開示内閣府令:
2010年4月施行)

ライツ(新株予約権)の発行に必
要な有価証券届出書の提出から
割当の基準日までの期間を、25
日から15日に短縮

金商法改正による
利便性向上
(金融庁:2011年4月1日
施行予定)

目論見書交付方法の
弾力化

ネット上の開示で、目論見書を実際に交
付・送付する手間を省く内容

引受の範囲の見直し

コミットメント型への証券会社への対応
を監視→投資家保護への対応

新株予約権の行使を
働きかける行為に対す
る規律

証券会社への行為の適正化→株主・投
資家保護への対応

公開買付規制・大量保
有報告規制への対応

コミットメント型への証券会社への対応
など

外国の証券規制への
対応

米国株主規制などへの対応(10%以上
の米国株主がいる場合の問題)

※この部分は、本来は会社法の問題だが、上場規則
等で実務的に対応が

など

証券会社にとってのライツ・イシュー

